

### 3 少子化の影響

少子化が進むことで私たちにどのような影響があるのでしょうか。少子化がこのまま進むと、過疎化で地域が活力をなくしたり、景気の停滞によって生活水準が低下したり、高齢化で若年層を中心とした社会保障の負担が増えるなど、社会の仕組みに深刻な影響を与えることが心配されます。

#### 子どもへの影響

- 子どもの数が減ると子ども同士の交流が減少し、多くの子どもの中でさまざまな経験をする機会が乏しくなります。社会性が育まれにくくなるなど、子どもの健やかな成長に影響を及ぼすことが懸念されます。
- 青少年期に乳幼児と接する機会が減少することで、その子どもたちが親になったときに、育児不安につながることも懸念されます。



#### 地域への影響

- 単身世帯や子どもがいない世帯が増えることによって、高齢化や過疎化が進行していきます。地域の催しに参加する人が少なくなるなど、地域の活力低下が懸念されます。
- 人口の減少により、住民に対する基礎的なサービスの低下につながる可能性があるほか、将来的には地域そのものを維持していくことが難しくなることも懸念されます。



#### 経済への影響

- 出生率の低下が続くと、高齢者人口の割合が増加する一方、国全体の生産力を支える生産年齢人口の割合が減少し、経済成長の停滞や低下が懸念されます。
- 働く人が減少すると、たくさん的高齢者を少ない若者で支えなければならない社会になるため、若い世代を中心に社会保障の負担が増加し、生活が苦しくなることが懸念されます。



### 理解しよう！考えてみよう！

- 少子化が進むことで、あなたの生活にどのような影響があると思いますか。
- 少子化は、社会全体の問題です。みなさん一人ひとりが北海道の少子化について理解を深め、その解決策などについて考えていくことが少子化対策への一歩となります。

### トピックス

## 人口減少はなぜ生じるの？

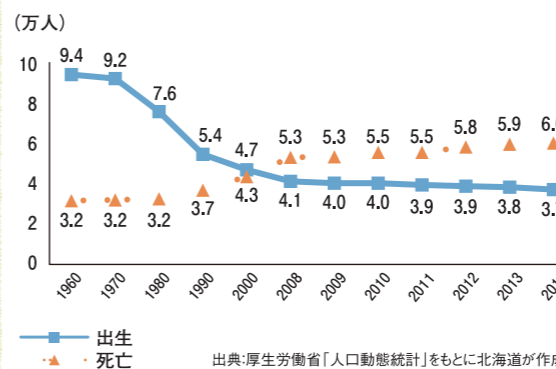
人口減少は、「出生数(増加)と死亡数(減少)の差」(自然動態)が要因となっており、出生数より死亡数が上回ると人口が減少します。また、「転入(増加)と転出(減少)の差」(社会動態)も要因となっており、地域においては、転入数より転出数が上回ると人口が減少します。

北海道の状況を見ると、本道の合計特殊出生率は、第2次ベビーブーム後の1975年頃から減少傾向にあり、2005年には過去最低の1.15まで減少しました。近年は回復傾向にあり、2014年は1.27となっていますが、全国平均の1.42を大きく下回っており、死亡数と出生数の差は、約2万人となっています。

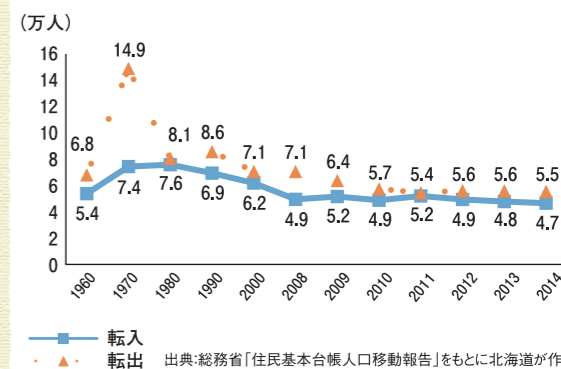
一方、社会移動では、1960年以降、道外への転出が転入を上回る傾向が続いており、2014年は約8千人の転出超過となっています。

そのため、本道の人口減少への対応については、自然減と社会減の両面から同時に取り組む必要があります。

1. 出生数・死亡数の推移 (北海道)



2. 転入・転出の推移 (北海道)



また、年齢3区分別人口で見ると、本道の生産年齢人口(15～64歳)は、1980年代まで増加が続き、1990年代にかけて一定の水準を維持していましたが、1990年代後半から減少に転じています。

年少人口(15歳未満)は、1950年代まで増加を続けた後、減少に転じ、1970年代の第2次ベビーブームにより横ばいの時期もありましたが、1980年代以降は減少が続き、1990年代後半には高齢者人口を下回りました。

高齢者人口(65歳以上)は、戦後のベビーブーム以降の世代が高齢期を迎えていること、平均寿命が延びたことなどから、現在まで一貫して増加を続けています。

自然減と社会減への対応に取り組むことは大変重要ですが、このように、人口減少とともに人口構造も変化していることを踏まえ、人口減少下におけるさまざまな課題についても同時に対策を進める必要があります。

3. 北海道の年齢3区分別人口の推移

